



大阪市立 鶴橋小学校

校長名 井上 克己

所在地 〒544-0034 大阪市生野区桃谷2-20-32

電話 06-6731-2278 FAX 06-6731-1797

URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e671482>



主な学校行事

| | |
|-----|------------------|
| 4月 | 入学式 対面式 |
| 5月 | 春の遠足 |
| 6月 | 体力・運動能力テスト プール開き |
| 7月 | プール納め 期末個人懇談会 |
| 8月 | |
| 9月 | 林間学習 全校遠足 |
| 10月 | 修学旅行 運動会 |
| 11月 | 卒業遠足 |
| 12月 | 期末個人懇談会 |
| 1月 | |
| 2月 | 入学説明会 |
| 3月 | 卒業式 修了式 |

教育目標

心豊かな子
たたく・やさしく・たくましく

めざす子ども像

- 互いの考えを伝えあい、考えることを楽しむ子ども
- 「疑いすぎることなく、信じすぎることなく、常に自分で確かめよう」とする姿勢をもつ子ども

令和3年度全国学力・学習状況調査

大阪市教育委員会の方針では、調査対象学年が単学級の場合は公表しないことができるとされていますが、生野区では単学級が継続する場合のみ平均正答率は公表しないとしています。

結果概要

- 平均正答率では、国語科・算数科ともに全国平均を上回る結果となった。
- 国語科では、全国平均を約4P、大阪市平均を約6P上回った。領域では、「言葉の特徴や使い方に係る事項」、「書くこと」において、全国平均・大阪市平均を上回ったものの、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」においては大阪市平均を上回りつつ、全国平均よりはそれぞれ約1P、約2P及ばずと課題が見られた。
- 算数科では、全国平均を約6P、大阪市平均を約6P上回った。領域ではすべて全国平均・大阪市平均を上回っているものの、「数と計算」領域の問題の中には、正答率が全国を下回ったものも見られたことにより、今後の課題と捉える。

自校の取り組みの成果と課題、アクションプラン

- 【成果】
- 平均正答率は国算とも全国を下回った。粘り強く問題に取り組むことを指導してきた成果と考える。
 - 国語科では、「思考に関わる語句の使い方理解し、話や文章の中で使う問題」の正答率がほぼ満点に近い結果が出た。算数科では「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題」においては全員正解となった。日常における活発な言語活動の取り組みや、生活場面とつなげた学習の成果が表れと捉え、今後も継続して指導していく。
- 【課題】
- 自己の現状の学力を常に把握し、得意な面を強みととらえ、不得意を改善・向上させようという学びへの意識を向上させる。
 - 国語科では「読むこと」の領域について課題が見られた。「目的に応じ、文章と図表を結びつけて必要な情報を見つかる問題」においては、大阪府及び全国の正答率を下回った。児童質問紙の「国語科の授業では、目的に応じて

標準服

有



重点目標

- 主体的・対話的で深い学びの授業改善に向け、授業のユニバーサルデザインを推進し、「個別最適化な学び」と「協同的な学び」を実現する。
- 体育学習の進め方を工夫するとともに、休み時間や放課後等に進んで運動に取り組む児童を増やすことで、児童の体力・基本運動能力と健康への意識向上を目指す。
- キャリアパスポートの活用を推進して、学校生活のあらゆる場面で児童一人一人が活躍できる場所を設定し、主体的な活動を活性化させることで、児童の自己肯定感の向上を目指す。
- 「予測困難な時代」を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となる児童の「やり抜く力」を育てていく。
- 研究主題を「思考力・判断力・表現力を育む国語科・算数科～互いの考えを伝えあい、考えることを楽しむ子どもの育成～」と設定し、「疑いすぎることなく、信じすぎることなく、常に自分で確かめよう」とする姿勢をもつ子どもを育むべく国語科・算数科を研究の重点として取り組んでいく。

文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを上げたりしていますか」に関して肯定的な回答率は大阪府及び全国を下回っており、今後データを活用し、読み取る力や自身の考えを相手に伝えるための文章力の育成が必要と考える。

○算数科では「数と計算」領域に課題が見られた。特に「必要な数値を選択しその差を求める問題」や「高が1より小さくなる等分除(整数÷整数)の計算問題」において大阪府及び全国の正答率を下回った。また、「図形」領域の問題では無解答率が高く、今回の調査では正答率は大阪府及び全国より高い結果であるものの、「図形」領域において潜在的に課題や苦手意識を持つ児童がいることが推察される。

【アクションプラン】

- 研究主題「思考力・判断力・表現力を育む国語科・算数科～互いの考えを伝えあい、考えることを楽しむ子どもの育成～」により、主体的・対話的で深い学びの実現に繋がる指導法の探求と、授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習づくりを2つを柱としてとらえて研究を進める。
 - ①論理的思考力の育成を目指し、相手に伝えるように話を組み立てること・根拠をもって考えを説明することを中心に話し合い活動に取り組む。
 - ②すべての子どもにとってわかりやすい学習を目指し、「考える」ことを支援する学習づくりとして学習の焦点化・視覚化・共有化に留意し、学習の在り方の見直しを図る。
- 今後伸ばしていきたい児童の力について、9つのプロジェクトチームを設立。教員全員がそれぞれのチームに所属し、担当する学習課題に対し、運営に関する計画に沿って年度目標の設定・行動計画の立案・実施を行う。
- 大阪市教育振興基本計画の重点目標に迫るため、学校運営の計画を着実に実施する。また、学校協議会を柱として、地域と協働した取組を進めていく。

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

大阪市教育委員会の方針では、調査対象学年が単学級の場合は公表しないことができるとされていますが、生野区では単学級が継続する場合のみ種別平均値は公表しないとしています。

結果の概要

総合的に男子は、半分の項目において全国の平均・大阪市の平均を上回ったが、女子については全国の平均・大阪市の平均に及ばない項目が多かった。しかし、その中でも男子の反復横跳びについては、全国の平均・大阪市の平均を上回る結果を示しており、能力の高さが示された。そのほか、握力・上体起こし・長座体前屈の3項目については、昨年に引き続き、大阪市の平均を上回った。50m走やソフトボール投げの記録は新型コロナウイルスによる運動

均を上回る結果を示しており、能力の高さが示された。そのほか、握力・上体起こし・長座体前屈の3項目については、昨年に引き続き、大阪市の平均を上回った。50m走やソフトボール投げの記録は新型コロナウイルスによる運動

機会の減少が結果に反映したのではないかと考えられる。また全体としては、体力のついていない児童とそうでない児童が2極化する傾向にあり、男女の差も見られる。引き続き、学校全体で、児童の体力向上の取り組みを進めていく必要があり、日ごろから運動する習慣をつけることが大切だと考える。運動に親しみ、運動が好きな児童の育成をめざし、体育科の授業や休み時間の外遊びの工夫など、学校全体の取り組みを続けていく

●自校の取り組みの成果と課題、アクションプラン

令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における体力合計点は、男子は僅かながら全国には届かなかったものの大阪府平均は上回ったことに対し、女子は全国及び大阪府平均共に下回る結果となった。児童質問紙調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対する肯定的な回答も、男子は92.8%、女子は55.5%と2極化している。運動が嫌いな理由について、女

子は全員が「小学校入学前から体を動かすことが苦手だから」を選択した。女子の運動に対する苦手意識は、「体育の授業以外の運動時間」が平日は平均30分以内といった回答であることにも表れている。今後は特に女子について、運動に対する苦手意識を軽減していく必要があると考える。

今年度体育の学習では、サーキットトレーニングを取り入れたり、50m走のラインを常に引いておいたりして、簡単に運動ができる環境を整えてきた。校内行事では大綱大会の実施、各学級では学期毎の50m走の記録測定や、みんな遊び等の実施方法の工夫などにより、これまで外で遊ぶ機会が少なかった児童も少しずつ運動場で体を動かす姿をみせるようになりつつある。

今後も子どもの体力・運動能力向上のための具体的な取り組みを教員の共通理解のもと実施するとともに、体を動かすことに興味・関心をもたせ、体力を向上させることが有効であることを児童に実感させる取組を推進していく。

校長先生のメッセージ

鶴橋小学校の子どもは元気で明るく、優しい子どもがたくさん通う学校です。これからも保護者、地域のみなさんとともに、子どもたちの安心・安全を保障し、楽しみながら学習ができる笑顔あふれる学校にしていきたいと、日々最善の教育活動を進めています。そのために、すべての教員・職員が力を合わせて、全力で鶴橋小学校を支えてまいります。

運営に関する計画

●計画のエッセンス

今年度は感染対策を十分に踏まえたうえで、学習において個別に課題を有する児童への「指導の個別化」や、児童の「学習の個性化」を保障した活動を通じて自己肯定感を高めるための手立てについて策を講じる。併せて「予測困難な時代」を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となる児童の「やり抜く力」を育てていくことも急務と考える。昨年同様、研究主題を「思考力・判断力・表現力を育む国語科・算数科～互いの考えを伝えあい、考えることを楽しむ子どもの育成～」設定し、「疑いすぎることなく、信じすぎることなく、常に自分で確かめよう」とする姿勢をもつ子どもを育むべく国語科・算数科を研究の重点として取り組んでいく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を1ポイント増加とする。
- 令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を前年度より0.01ポイント向上させる。（※全国平均を1とした時の割合）

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業にデジタル教材を活用した自学自習を組み込み、授業時間外（家庭学習も含める）の自学自習の習慣化を図る。

●中期目標、年度目標等

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
- 令和4年度における児童アンケートで、「自分には良いところがある」と答える児童の割合を87%以上にする。

「特色ある学習活動」 および 「家庭・地域等との連携」

家庭・地域等との連携

■鶴橋こども見まもり隊

本校における見まもり隊は、登下校の見守りをはじめ、校外におけるあらゆる機会を通じて子どもたちを見守り、明るく声をかけてくださる等、子どもたちの健やかな成長に欠かすことのできない方々です。月1回本校にて行われる情報交換会においては毎回見まもり隊隊員の方がご参加くださり、子どもの様子及び生野区内の安全に係る情報の交換を行うなど、子どもの安全を第一に、優しく温かく学校を支えてくださる心強い存在です。



特色ある学習活動

■ワクニコ班によるたてわり活動

本校では子どもたちが「ワクワク・にこにこ」しながら交流できる、互いに顔の見える関係づくりを目指し、1年生から6年生までによる異学年交流力を入れている。毎週木曜日の児童集会では毎回たてわり班活動を取り入れることで、子どもたちの関係づくりを大切にしている。全校遠足におけるオリエンテーリング、及び遊びのお店を運営するグループとそれらのお店を見て回るグループに分かれて活動するつるっ子祭りでは、普段の活動で培ったチームワークを存分に発揮し、それぞれに役割をもって力を合わせて取り組む姿が見られる

